

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 24 章 13～35 節＞

1 (13-21) 二人の弟子たちが期待していたイエス・キリストとは？

エマオに向かう二人の弟子たちの「目は遮られていて、イエスだとは分からなかった」(16)とルカは記しています。「目が遮られていて」でルカは何を言いたかったのでしょうか？ 現れられたイエス様は生前の姿とは違っていただけではないでしょう。弟子たちは、イエス様は「行いにも言葉にも力のある預言者だった」(19)、「あの方こそイスラエルを解放して下さると望みをかけていた」(21)と言っています。彼らはイエス様に賭けていましたが、その賭けて期待した内容が、神様がイエス様に託された内容とは違っていたのです。だから、婦人たちが告げた言葉(23-24)が理解できず戸惑ったのです。私たちも気をつけなければなりません。イエス様に期待しても、期待する内容が神様が考えられているものと違うなら元も子もありません。神様が考えられているものは、私たちが勝手に期待した内容をはるかに超えた恵みの内容なのです(2の最後で)。イエス様の復活が私たちにとって何を意味するのかが最重要であり、主は今も聖霊によって私たちがそれを理解するまで導いて下さるのです(ヨハネ福音書 16:14)。

2 (22-35) 主の復活の意味は？ キリスト教信仰の最重要事項！

この後、復活された主が彼らに、聖書(旧約)をちゃんと読めばイエス様が死なれた後に復活されることは分かるはず、「メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入る」(26)と、旧約聖書を説き明かして示されました(ここで「復活される」ことが「栄光に入る」と言い換えられていることにも注目[ヨハネ福音書 16:14でも])。それは既に主から聞いていたことでしたが、今復活の主ご自身から同じことを聞き、弟子たちは少しずつ理解し始めています。そしてついに、パンを裂かれる姿を見て初めてイエス様だと分かったのです(30-31)。大事なことは、「主が聖書を説明して下さったとき、心が燃えていた」(32)ということです。「遮られていた目」は主に導かれて聖書が正しく解き明かされた時に開かれたのです。イエス様の復活、それは、私たちがどんな状況に置かれた時にも生きて働いて下さる主を思いながら生きることができるようになさしてくれますし、同時に、死が最後ではないことを私たちに知らせてくれます。すごい恵みの内容ではないでしょう。